

令和5年5月26日（金曜日）参加数：82名

主催：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
全国生涯学習・社会教育センター等協議会

生涯学習センター等の相互の連携協力を推進するため、全国の生涯学習センター等の代表者・職員等が集い、ライブ配信にて当面する課題について研究協議等を行った。

テーマ「住民の学びとウェルビーイングを実現するための生涯学習センター等の可能性」

基調講演 「ウェルビーイングを実現するための生涯学習の方向性」

[報告者] 聖心女子大学 現代教養学部 教授 澤野 由紀子



澤野講師

ウェルビーイングを実現するための生涯学習の方向性について、「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」で示された内容について触れていただきながら、生涯学習センター等における今後の振興方策についての話があった。

参加者の声

- ・ウェルビーイングについての詳細を知ることができた。生涯学習によってウェルビーイングを実現できるよう研修を深めながら、生涯学習推進に向けた取組を行っていきたいという気持ちがさらに強くなった。
- ・ウェルビーイングについて、なんとなくの理解しかなかったが、その背景を含めしっかりと理解することができた。また、生涯学習によってウェルビーイングが実現できる可能性があることについても理解できた。

講義・事例研究

「ウェルビーイングにつながる地域課題解決に取り組む生涯学習センター等の実際」

[講師・コーディネーター]

大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター

教授 岡田 正彦 氏

[事例発表者]

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

社会教育主事 阿部 貴弘 氏

八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部学習支援課

主事 池上 尚輝 氏

岐阜大学地域協学センター/ぎふ地域学校協働活動センター

センター長 益川 浩一 氏

助教 後藤 誠一 氏

助教 二村 玲衣 氏



岡田氏



阿部氏



池上氏



益川氏



後藤氏



二村氏

まず、3本の事例発表の前に、岡田コーディネーターから、事例発表を聴く視点についての説明があった。その中で、それぞれの発表要旨にふれつつ4つの視点が提案された。

- 1 事例を分析・検討する視点を持ちつつ聞く
- 2 事業の直接的な内容・目的と地域にもたらそうとする波及効果
- 3 地域課題解決のためにどのような連携・協働を生み出しているか
- 4 人づくりから仕組みづくりへ



阿部講師

阿部講師からは、「障がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究」を行うに至った経緯や背景、研究結果から見てきた事柄に触れていただきながら、特に障害者の生涯学習支援のために生涯学習センター等で取り組む際の視点、展望など、その可能性についての話があった。

参加者の声

- ・調査を行い、実態を把握して取り組まれていることに感心し、大変勉強になりました。また、部局を超えて連携、協働出来ていることが素晴らしいです。当事者の思いを汲み取ることの大切さを感じました。
- ・障害者の生涯学習という視点がこれまで希薄だったので、お話を伺って、その必要性と課題を認識できました。



池上講師

池上講師からは、地域住民のうち、外国籍の方々を対象にした講座を始める経緯や取組の様子、成果や今後の展望等について、地域住民の学びの場を設定する意義や地域住民への理解などに触れながら、共生社会実現のための一事例としての話があった。

参加者の声

- ・地域の特色から生じる課題解決をまち全体で取り組むだけでなく、地域交流のきっかけとして昇華している点が良かった。
- ・地域の団体や活動されている方を巻き込んで、事業の設計がされている点が参考になった。課題意識を持っている人と課題を解決できる意欲とスキルをもった人が上手く結びつくと、持続可能な仕組みが作られる事が分かった。



益川講師

岐阜大学からは、益川講師を中心に、多くの自治体が行政として行っている地域学校協働活動推進員の研修機会を大学のセンターとして実施するに至った経緯や取組の成果、課題に触れながら、地域住民の学びの場として、今後どのように大学のセンターが貢献できるのかという視点で、その可能性についての話があった。

参加者の声

- ・地域と大学の連携は重要だと思います。大学だけでなく小中高の学校と地域との連携はより一層すすめるべき課題と感じます。
- ・大学と地域がそれぞれ動きやすい場所を設定し、一般の方が学べるようにセッティングし、フォローし、育てていく様子に、すごいと感じました。窓口が多すぎないほうが、力を出したいと思う人には便利だと思います。



後藤講師

二村講師

岡田氏からは、3つの事例発表を踏まえながら、今後、生涯学習センター等がどのように地域の直接課題を見出し、どのような視点が地域課題の解決に結びつくのか、また、それが地域住民のウェルビーイングにどう作用していくのかといった点について、発表者との対話を通して、生涯学習センター等における地域課題解決についてのまとめの話があった。

参加者の声

- ・事例発表を聞く視点の提案は今後とても参考になった。また、どのように自分事に引き付けて聞けばよいのか、今回限りではなく今後に生かせる示唆をいただいた。
- ・コーディネイト側の手腕がとても参考になった。注目点や聴講者の姿勢を先にお伝えいただいたり、岡田先生の受け止め、気づき、質問のバランスがよかった。
- ・ただ聞くだけではなく自分たちの地域でどうアプローチしていくかが大事だと思った。



岡田コーディネーター

グループ協議

生涯学習センター等の住民の学びと活動の拠点としての新たな役割

【協議テーマ】

- A 届けたい地域住民に届く学習情報提供の在り方とは
- B 若者から高齢者までが集い学びの場となるための取組とは
- C 「地域づくり・人づくり」に繋げるICT活用（デジタル化の推進）とは
- D ウェルビーイングの実現に向けた生涯学習センター等の取組とは

受講者が、申込時に選択した協議テーマについて、ウェブ会議システム上で分科会形式の協議を行った。

グループ協議用のワークシートを画面上に共有しながら、「協議テーマについての現状や課題または協議テーマに関心を寄せる理由について」、「協議テーマについての考えやアイデア、取組方策、理想の姿」、「グループ協議を通して得た、新たな気づきやテーマに関する班なりのこたえ」等について、活発な意見交流・情報交換を行った。その後、グループで協議した内容及び班なりのこたえについて発表した。



グループ内での発表の様子

参加者の声

- ・共有した課題の中から、これからの方向性が見えました。他県のような機関の方から学ぶことは多いです。本日学んだことがたくさん生かせます。
- ・グループ協議等で気付いたことは、どこのセンター等も悩んでいることや取り組んでいることは似ている。それが分かったことは重要で、今後の本センターの取り組みが他のセンターの参考になる取り組みになるかもしれないし、困ったら他のセンターの取組を参考にできる。
- ・グループの中では、各県の実情が異なる中でも、同じような課題をお持ちであることを知り、勇気づけられた。また、ほかのグループの発表からは、違った視点での考えを聞くことができ、視野を広げることにもつながった。非常に有意義な時間であった。